

## 第44回びわこ学園実践研究発表会報告 令和7年12月13日（土）ハイブリッド開催

法人事務局事業企画部

2025年度びわこ学園実践研究発表会では、テーマを昨年度と同様「その人らしさが輝く、人生への支援」とし、主に地域支援について学ぶ機会として開催しました。

今年度は、オンラインとびわこ学園医療福祉センター野洲会場のハイブリッドでの開催となりました。参加者は、びわこ学園職員やご家族等を合わせ参加者は175人となりました。県内外から多くの方に参加いただきました。

前半の「講演の部」については、重症心身障害児者施設で看護療育部長を務められ、現在は訪問看護を始めとし多機能型施設を運営されている丸山美智子氏（一般社団法人幹・幹らんど代表理事）に「地域から見た入所施設に期待すること」をテーマにご講演をいただきました。

私たちは現在、慢性的な職員不足や日々の多忙さの中にあり、入所施設では短期利用を制限せざるを得なくまた、地域支援に充分こたえられない状況にあります。

今回のご講演では、重症心身障害児者施設に着任された当初、「疾患名がわからない」「障害福祉サービスの用語がわからない」というところから始

まりながらも、「人として関わる」ことの重要性を学ばれた経験が語られました。さらに、眼科医との出会いを通じて、幼少期からの視覚支援が本人の発達を促すことにつながるという示唆に富んだ内容もありました。



講演の部講師 丸山氏

また、幹の理念である「笑顔の瞬間」についてのお話や、「入所施設は地域支援や家族支援の核であり、やりがいと誇りをもって今後も取り組んでほしい」とのメッセージに、仕事を続けるうえで大きな勇気をいただきました。

後半の「実践報告の部」については、びわこ学園医療福祉センター草津・野洲、びわこ学園障害者支援センター（ケアホームともる）及び知的障害児者地域生活支援センター（相談課）から実践報告をしました。

**報告1** びわこ学園医療福祉センター草津からは、「独自の生活スタイルを持つ利用者の褥瘡に対するアプローチ」をテーマに、自力で移動・体位変換できる、独自の生活スタイルを持つ利用者Aさんに褥瘡が発生し、医療的な処置だけでは改善が見られなかったが、環境面・生活スタイルの見直し等の介入を行うことで、改善に至った経過について報告しました。

**報告2** びわこ学園医療福祉センター野洲からは、「障害特性などが関連して摂食に困難さをもつ利用者への支援」～修学旅行・学校卒業後に向けた取り組み～をテーマに、2022年に入所されたBさんについて、摂食に困難があり、不定期に食べにくい時期があるが、食べにくさの背景にある障害特性に配慮した支援を行い、修学旅行の実現と卒業後の生活を見据えた取り組みを実施した経過について報告しました。

### 報告3

びわこ学園障害者支援センター ケアホームともるからは、「グループホームでのQOL向上」～視覚支援、環境整備から考える～をテーマに、ケアホームともるに入居するC氏について、自閉傾向と強いこだわりから昼夜逆転や日中活動への参加困難があったが、視覚支援等の活用により不安が軽減して生活リズムの改善につながり、本人の障害特性を「その人らしさ」として捉えて支援をしたことについて報告しました。

### 報告4

知的障害児者地域生活支援センター相談課からは、「統合失調症のDさんが、就労継続支援B型事業所に通所できるようになるまで」をテーマに、統合失調症を発症し長年引きこもりとなっていたが、2000年より生活支援センターの定期訪問を開始して現在は就労継続支援B型事業所に通所し、スタッフや利用者と一緒に取り組んでいる中、定期訪問開始時からの本人との関わりで意識していたことや、相談支援が構築した支援チームによるアプローチがどのような影響を与え、通所にまでつながることができたのかの経過を報告しました。

## 『地域とともに生きる』 ～ “ケアホームとともる” 地域共生の取組～

びわこ学園障害者支援センター・ケアホームとともる

「ケアホームとともる」では地域の中にある施設、地域の一員としてもっと何かできないかを考え、新たに3つの取組を行っています。

### 第1弾

大型商業施設「フォレオ大津一里山」で毎月開催されている「マルシェ」に出店、生活介護事業所の活動で利用者さんが作成した商品を販売し、活動を知ってもらうとともにホーム利用者さんと交流してもらう取組です。学園の職員募集のお知らせもあわせて行っています。多くの買い物客に立ち寄っていただき、このマルシェでの売上は生活介護事業所の活動に還元しています。



フォレオマルシェへの出店

### 第2弾

学区（大津市松が丘）のスクールガードに参加、利用者さんとともに帽子と腕章をつけ、小学生の下校時の見守りをしています。初めは声をかけても返事されることが少なかったのですが、今では『おかえり』『ただいま』など“言葉のキャッチボール”ができるようになってきて、利用者さんも「地域の役に立っている」と手応えを感じています。



とともるでのイベント

### 第3弾

とともるプチマルシェ企画として、建物前の駐車場にキッチンカーを2台配し、地域住民の方に来てもらうとともに施設見学もしてもらおうという企画です。地元自治会で許可をとり、回覧板と利用者さんによるポスター等でイベントの広報・周知を行いました。当日（8/23）は来場者150名、施設見学者20名と大盛況。利用者さんの日常生活や職員の仕事内容などに関心を示される方も多く、ご質問もたくさんいただきました。

これら一連の取組で地域の一員として、地域との関係性をより強く築くことができ、利用者さん、職員、施設にとって豊かな経験と成長の機会を得られていると考えています。こうした地域共生の取組を粘り強く、そして長く継続させつつ、地域を巻き込んだ協働の取組へと高めていけるよう、これからも利用者さんとともに地域に根ざし、開かれた施設を創っていきます。

## 特定技能外国人の皆さんが びわこ学園で活躍されています!!

びわこ学園医療福祉センター野洲

びわこ学園に来た当初は、言葉や生活環境、職員との関係性などでコミュニケーションに苦労し、不安を感じることもありましたが、今ではその不安も減ってきました。

特に、利用者さんとの関わりは嬉しく、やりがいを感じています。職員の皆さんが優しくサポートし、分かりやすい言葉で伝えてくれるため、仕事がしやすい環境です。また、色々な所や、ラーメンなど美味しいものを食べに連れて行ってもらったことも楽しい思い出です。ちゃんぽん亭が一番美味しかったです。

生活には慣れてきましたが、寒さにはまだ慣れません。将来の目標は、N1試験合格と介護福祉士の資格取得で、この学園で長く働き続けたいと考えています。皆さんのサポートのおかげで、充実した日々を過ごしています。

生活支援員 クレア

びわこ学園で、介護職員として2年間働いてきましたが、外国人として今でも日本語で記録や申し送りを行うことは難しいと感じることがあります。JLPT（日本語能力試験）のN3レベルに合格できてとても嬉しかったですが、時々コミュニケーションが遅いなど感じることもあります。

それでも、日本人の同僚の皆さんがあたたかく支えてくださり、心から感謝しています。

利用者さんのお世話はとても楽しく笑顔を見ると元気をもらいます。これからも日本語をもっと上達させ、周りの人に笑顔と温かさ届けられる介護職員を目指してしていきたいです。

生活支援員 ジェイン

違う国・違う文化の中で働くことは不安、緊張、そして興奮を感じました。ここで働き始めた時、私の日本語がとても下手で他の職員が何を言っているのか全く分からないこともありました。

大変な事もありましたが、利用者さんと様々な活動に参加できたので仕事は楽しかったです。経験を積むうちに、私はどんな人でも自分の状況にかかわらず、何かをする能力を持っている事を発見しました。外を散歩したり、簡単な仕事をしたり美味しいおやつを食べたり、それは小さな事かもしれませんが利用者さんにとっては楽しい時間です。

言葉では伝えられなくても、幸せそうな笑顔や手を振るといったシンプルな動作を見る 私も幸せになります。そういったこと全てを見てケアする事が出来て私はこの仕事を続けて良かったです。今はまだ学ぶべきことがたくさんあります。まだまだ道のりは長いですが、より適切な介助が提供でき、仕事の効率も上がるよう、介護福祉士の資格をとって合格しようと考えています。そのために、勉強して頑張ります。

生活支援員 マリア



左からマリアさん、クリアさん、ジェインさん

明るく前向きに頑張っている彼女たちには、いつも元気をもらっています。一緒に担当利用者さんの記録を読んでみると、「〇〇さん、良かったねえ!」と、その方の気持ちに寄り添いながら嬉しそうにしている姿があります。その姿を見るたびに、こちらまで嬉しくなり、大切にすべきことをあらためて気づかせてもらっています。

日本語の勉強や介護福祉士の資格取得に向けて、日々取り組むことが多い中、本当に一緒に懸命に努力している様子が伝わってきます。心からエールを送りたい気持ちでいっぱいです。

これからも一緒に、学園での仕事を楽しくいきましょうね。

(医療福祉センター野洲・生活支援教育担当 森下 弥生)

# Welcome ! ようこそびわこ学園へ!!

びわこ学園人財育成部



# မင်္ဂလာပါ

(ミンガラーバ) ミャンマーの代表的な挨拶です



2025年12月2日辞令交付式

ミャンマーからようこそ日本へ！学園だより148号でご紹介したフィリピンの方に続くミャンマーからの特定技能外国人の方たちが2025年12月1日入国、2日に辞令交付を受けられました。現場の職員の丁寧な指導、生活サポートを含めた受け入れ体制、多くの職員の協力によって支えられていることに深く感謝しています。新たな仲間がびわこ学園に加わり、2026年もさらに活気もたらされることと非常に楽しみにしております。

日本の冬は寒いので風邪をひかないように体も心もポカポカにして、これから一緒にかんぽりましょうね!!



理事長室にて(写真左から) ヨンさん(草津)、レーさん(草津)、テインさん(野洲)、口分田理事長、ミヤッさん(野洲)、ジンさん(草津)、チョーさん(野洲)



特定技能外国人の母国とびわこ学園 (日本)



フィリピンの先輩との交流

そして本年2026年3月にネパールからセンター野洲に3人、フィリピンからセンター草津に2人の特定技能外国人を新たに迎える予定です。

上の地図は特定技能外国人の母国の位置を示しています。赤枠右からフィリピン、ミャンマー、ネパール。文化も母国語も異なりますがそれぞれの背景や文化を大切にしながら、共に歩んでいきたいと思っております。これからもよろしくお願ひします。

